



i n t e r v i e w

タイ金型工業会 会長

ヴィロジ・シリタナサート氏

Viroj Sirithanasart

大阪産業大学 デザイン工学部 情報システム学科 教授

+ 前川佳徳氏

Yoshinori Maekawa

前川 今回は、タイ金型工業会 (Thai Tool and Die Industry Association; TDIA) 会長のヴィロジ・シリタナサート (Viroj Sirithanasart) さんが、JIMTOF 2012 の

視察と日本の金型企業の工場見学に来日されたので、タイの金型事情についてインタビューをさせていただくことにしました。

まず、タイ金型工業会 (TDIA) の紹介からお願いします。

ヴィロジ タイ金型工業会は 1992 年に設立され、私は 2005 年から会長をしています。金型産業の発展のためタイ工業省の主導で組織され、現在のメンバー数は 643 です。内訳は、金型・治具メーカーが 70%、ユーザーが 22%、部品メーカーが 8% です。工作機械

現地メーカーのレベルアップを図り、ASEAN への部品供給基地としての役割を確立する

メーカーやプレス、プラスチック成形機メーカー、大学教員もメンバーとして入っています。①スタンピング型、②インジェクション型、③ゴム型、④ダイカスト型の 4 部門があります。

前川 日系の金型メーカーや部品メーカーも多くタイに進出していますが、タイ金型工業会には日系メーカーは入っていませんか。また入会できるのでしょうか。ヴィロジ おっしゃるような優秀な日系金型メーカーや部品メーカーが、タイには多く来ています。本工業会は、タイの特に中小モノづくり企業育成のために設立されていますので、日系メーカーは入会していません。しかしタイで製造をしている日系メーカーは、タイの会社ですから、入会していただいてもよいのです。多くご参加いただければ、ありがたいですね。タイの



〈プロフィール〉

ヴィロジ・シリタナサート (Viroj Sirithanasart)

1960年6月21日 バンコク生まれ。

金型製造および輸入会社 Master Tech & Systems Co., Ltd. のオーナー。

2005年タイ金型工業会 (Thai Tool and Die Industry Association) 会長に就任。

2012年基盤産業関連協会 (Alliance for Supporting Industries Association)

会長に就任。

タイ工業省トップ、BOI (投資委員会) トップとのつながりが強い。工業省との連携で、日本の型技術協会と協定を結び、日本から学ぶことに積極的な活動を進めている。ASEAN 地域を飛び回り、モノづくり産業の状況に熟知している注目すべき人である。タイの裾野産業育成のために精力的に動いている。

ローカル企業との情報交換や交流ができますので、日系、タイ・ローカルの双方にとってメリットがあると思います。

そもそも、タイの金型製造は日本との二人三脚で発展してきたのです。日本のモノづくり企業は ASEAN の中で、タイのみならず、ベトナムやインドネシアにも多く投資しています。しかし、ベトナムやインドネシアでの金型品質は十分ではなく、タイが金型をこれらの国に輸出し、進出している日本のモノづくり企業を支えてきたのです。金型だけでなく、裾野産業全体において、タイは ASEAN での日本のモノづくり企業へのサプライヤーとして、日本企業の指導を得ながら発展する戦略をとってきたのです。

特に近年では、インドネシアでの二輪車、四輪車販売が急増しており、これらにタイ製部品を多く提供しています。インドネシアに対してはその国自体のマーケットのみならず、世界中のイスラム教国への輸出基地としての可能性も視野に入れています。

タイの競争相手は中国

前川 今のお話に関連して、ヴィロジさんから見た、アジアのほかの国々の型技術レベルを評価していただけますか。タイのレベルを 100 として感覚的にはほかの国のレベルを評価してください。

ヴィロジ 例えば、二輪車のプレス型を例にとりますと、タイを 100 として日本は 150、中国は 100、台湾は

115、韓国は 130、インドネシアは 75、ベトナムは 80 というところでしょうか。あくまで私的見解ですが。併せてコスト比較ですが、タイを 100 とすると、日本は 135、中国は 85、台湾は 120、韓国は 115、インドネシアは 120、ベトナムは 85 という感覚です。

前川 日本は技術も高いが、コストも高いということ、次に韓国の技術レベルが高いということとはよくわかっていましたが、タイと中国は技術レベルで同じという評価は参考になりました。しかし、コストではタイより中国の方が低いとなると、タイにとっての競争相手は中国ということですね。あと、インドネシアの技術は高くないのに、コストが台湾並みに高いのはなぜですか。

ヴィロジ インドネシアでは材料のほとんどをシンガポールやタイから輸入しているので、コストが高くなるのです。

ASEAN におけるモノづくりのハブとして タイは最適

前川 日本の型技術協会はタイ工業省と 2006 年から、タイにおける金型産業の発展を目的に相互交流の覚書を取り交わし、2010 年からはタイ金型工業会と両国の金型産業の競争力強化、技術者交流の覚書を交わしています。しかし、あまり積極的な交流ができていないように思うのですが。

ヴィロジ タイにとっては、日本から技術をもっと学